

萬葉集解

十七

柳田文庫

文庫11

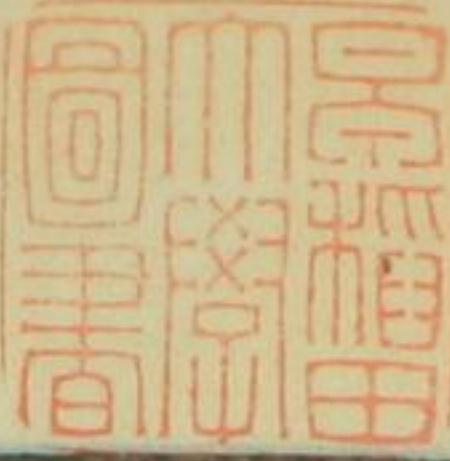
A104

26

30
29
28
27
26
25
24
23
22
21
20
19
18
17
16
15
14
13
12
11
10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0

A9301 8A





酒ヲ須

道ヲ趙

七言晚春三日遊覽一首并序

れのよみ七を五をすぞちる古

の式へ、唐人をもとより

上巳名辰暮春麗景桃花照臉以分紅柳色含苔而覩綠

漢禮儀志上巳禊飲のりてゆほよう三日と用ひし上巳とソルム

フニ名辰ハ佳節也ソリ由日、含苔ハ含蜜、含眉の徑也。あく

松浦河序よ同柳葉於眉中、麥桃花於頬上、とくにりそもほうくも

于時也。携手曠望江河之畔、訪酒廻遏野客之家。既而也

開樽得性蘭契和光。

元琴訪酒と午訪酒と夕酒、え麿を訪酒とよ、美酒から

トありりあく、遇え麿を遇え麿、そもほうく、遇のまちん、葉契ハ易の如葉

の徑よよく、同心の契よよ、和光ハ光よの徑よく、くへなどらのれきよこれ、

嗟乎今日所恨德星已歟歟、若不扣寂含章何以攄逍遙之趣、忽課短筆聊勒四韻云爾。

德星ハ吾の陳寔荀淑とよ人の

あすうて、賢考の集る所へお詫ての一人おもむきあるうて、己サと恨
といふ、か寂ハ陸機が文賦、か寂莫而求音とすよもて、きてひねを出る
とく、逍遙之趣ハて樂しむよて、逍とく逍々ほ

餘春媚日宜怜賞。上已風光足覽遊。柳陌臨江縛祓服。桃
源通海泛仙舟。雲罍酌桂三清湛。羽爵催人九曲流。縱醉
陶心忘彼我。酩酊無處不淹留。終春ハ次春こよどく、媚日ハうぐく
よきりとす、縛ハ綵文より繁榮色也とく、祓服ハ文選注より盛服也とく。す
桃源とハ西うし仙境とぞきくとも、雲罍ハ酒器也、詩の金罍の意も雲雷の
象をよしゆ、酌桂ハ謝惠連が雪賦より、正月は周禮の天官酒
正月辨三酒之物とく、三日清酒とくよわる。又三月三日清明もよ
みいづる。羽爵ハ、あよ羽觴ともよ回ト、九曲流ハくわくまき流れのすく、
一杯のれよ浮て四、五のまく、陶心ハ陶一和樂頌とも詩の意よく、忘彼

我とハ賓主のやもじきくおもむくへ、往々ハくがくよくの延と稱す様
三月四日大伴宿禰池主○○○池主おもむくと云標もく
昨日述短懐。今朝汎耳目更承賜書。且奉不次死罪謹言。
昨日とハ四月の事とく、三月述懐の詩と化す。これと五月射鷺しよ、又其時
マトナホ一過一おもむくとく、更承賜書とくもおこせーういと連うあら
うバ、序よ七歩成章とハいづれ、もくと御名のよすづりきと傳うあら
旦奉不次とく

不遺下賤。頗惠德音。英雲星氣逸調過人。智水仁山。既靈
琳瑯之光彩。潘江陸海。自坐詩書之廊廟。騁思非常。託情
有理。七步成章。數篇滿紙。
徳音莫遣英に白雲、皆毛詩。
あす、英雲星氣古キ英靈星運ともいづれかくさうがく、逸調ハとく
のちぐれてもえ、智水仁山ハ論語よりれど、湘中之琳瑯と世說工く、人

オヨモト、潘岳陸機又オハタク名をき文人多く江海ハモオのたきす。
ナシテ詩書う廊廟と、をよ身と道臺の中みまくもあれぬ
とへセ歩ハ魏の曹子建がんぐもく文作るのもいやうたまどりよ、
巧遣愁人之重患能除憇者之積思山柿詩泉比此如蔑彫龍筆海粲然得看矣方知僕之有幸也。敬和歌其詞云

秀泉、さうてあらすまきよ。以此加蔑ハ人まくおんじ及ばや。

彫龍ハ史記すよ。文彩のこまやうなる。筆海ハ李善上表の汲前脩

之筆海といふ。粲然ハあくやうまるす。

憶保枳美能彌許等可之古美安之比竒能夜麻野佐婆良
れほきみのみことかしこみ。あーびきのやまぬさへら
受安麻射可流比奈毛乎佐年流。麻須良袁夜奈爾可母能
もあまごのる。ひあそくそむる。ますらもやあふうもの

ノ誤毛乎

五解十七下

毛布安乎爾余之奈良治伎可欲布多麻豆佐能都可比多
もふあそによし。ならぢきのよふたまづきの。つうい
要末也。己母理古非伊伎豆伎和多利。之多毛比余奈氣可
えめや。こもゆこひ。いきづきわく。り。し。ひよ。あげふ
布和賀勢伊爾之弊由伊比都藝久良之餘乃奈加波可受
ふわがせ。いふ。へゆ。いひつぎくらく。よのなうハ。うす
奈枳毛能賀奈具佐年流己等母安良牟等佐刀奴等能安
ふきものう。ふくさむる。こともあらむと。さてびとの。あ
禮爾都具良久夜麻備爾波佐久良婆奈知利可保等利能
れよつぐらく。やまびふハ。そくらむふちり。うひどもの
麻奈久之婆奈久春野爾須美禮乎都牟等之路多倍乃蘇
まふく一。まく。もろのよ。すみれをつむと。一。ろく。一のそ

ノ誤久ノ房

ノ誤余

泥平利可弊之久禮奈為能安可毛須蘇妣役半登賣良波
でをりうへー。くれあるのあうもすそびきをとめらハ
於毛比美太禮底伎美麻都等宇良吳悲須奈里己許呂具
おしひみだれてきみまつとうらごひすふり。ころぐ
志伊謝美爾由加奈許寺波多奈由比

ト。いざみよゆうかことハたあゆひ

ト。やまきそばハ山野不傳人宣ち比奈毛のモハ辛の傳うべと、
市吟あふう力ナハ何をね是ヤヘキトヨハ行奉了之、こうくそひハ猪ノ尾
てあるふ、いきづきヨロハ息衝みて上す出、キカヒシハ風びよテ
余ハ余の送、ソヒキミ良之の文ハ久力漫うべ。やまきそば下へづる
セのキハうどをききあひ、とす5年の數がく程をきとし、やまじハ山
方へ、ばくよううとくもひきうちそとよまで里人の語くべそでさう

ト。左の袖ハ仰くもきぬ、革をも幅よりれどもあまべー、ころぐハ右の
くりもき、考のあ記すあー、こもはたをゆけ、身十三布垣のあつき
ひくまこゆくふもつけて事若棚知事一あしたなもく、寺九方と
たまうまでしきたまひづれ日一宿ちよべー、夷仲ニ由比とハちよべ
伊比小やくへだたみつらとすきえどー、宣ちさん此數のたまう
詞皆たな知とできくもよ、このと由比とできくもひいぐ、由比ハ黒れの邊
あもー、十三の寺の棚知と必たまれと仰げき邊の勢もよく許寺役ハ
集中こそだけば、こもく、古今莫よそくあく、さもく殊ふぞたまられ、
詳ちうざねく、大きのやうとゆて、そほほふきとくはめとりひつけ、
さやうふんじをりすゆく、十三の寺をもは人よ生むすもうれ、もくよ
よ、こもる、よもいすせキハ數ちきりの、里人ト云と告えられ、其の
時よ遊びて、とやもくきくもくさくよくなす、いとがよりくゆこと

ヨシ一のまちも引いたまゝで、我身のよきをとまきれて、かの
まのうへこううらをもつて、又行はるゝ者となつてこそハオのよきと併せて
うへとひて、およきを、一、其のゆるとうははまくやとりままで、かみゆてと壁アマツ
て、さかうとひとよづねるきわのうと、りすうで、かねてのあと鷹タカとし、
ちくましよ、とあくへいきうへとひ、やうに里人の词と羊ヤギとよづ
あねてとほり、いさきよと、さきこゆれど、うそもともちうの次よ词とハヅの
あくまなしが、かききかの頃の頃とえ磨を曾よせ、もしもちうと
波思久思久於毛保由
やまよきひよひよせ、キヌムラヒトとあうかよきい、またとおりちゆ

カハシヨシヨシモナガルカハシヨシヨシモナガル
カハシヨシヨシモナガルカハシヨシヨシモナガル
カハシヨシヨシモナガルカハシヨシヨシモナガル
カハシヨシヨシモナガルカハシヨシヨシモナガル

五經十七下

和賀勢故爾古非須弊奈賀利安之可伎能保可爾奈氣加
布安禮之可奈思母

三月五日大佛宿禰池主

昨暮來使幸也。以垂晚春遊覽之詩。今テ朝累信辱也。以覩
相招望野之歌。一肴玉藻稍寫鬱鬱結。二吟秀句已蠲愁緒。
非此眡翫孰能暢心乎。愚信ハ度かや、ちる度ニ相招望野。シハ
のちすよアラムテ、此瞻仰ハヨリそ人のよくアラムトモニシ
但惟下僕。稟性難彫。闇神靡鑿。握翰腐毫。對研忘渴。終日

因流綴之不能所謂文章天骨習之不得也。難勝ハ論語の宰
 予が子より早下へる國神麻屋ハいの園をす、齋毫とハ時移も
 のよきよき才なくて文化をめぐらむにさきとす、忘渴ハ故の干る
 とすかく、文と考る時はどうぞよし、因流ハ因循るのみ誤れ、無く不
 痛ハ至る文化ひなとりて、まことに文ちうのよすハされつきふ
 よりく、物も事じて及ばずよし、豈堪探字勒韻叶和
 雅篇哉。抑聞鄙里少兒。古人言無不酬。聊裁拙詠。敬擬解
 咎焉。こハ詩ニ次歌トソムのうと、オノイニ次歌のよこハめうとソム、
 国都里ガ足シ、或人ヨキ一トモ同ドミ、解笑ハ解人頤リテ
 ハムシテ、早下トモアトモ、如今賦言勒韻。同斯雅作之篇。
 豈殊將石同瓊。唱聲遊支曲歟。抑小兒譬言濫謳。敬寫葉端。
 式擬亂曰唱聲遊支の下脱字モ、曲歌の下も字モ脱セラ。遊活本極
 トモ

化論一本謹み仰る此以三十八字古有モト、参考ヘ

七言一首入料

杪春餘日媚景麗初已和風拂自輕。采燕銜泥賀宇入。歸
 鴻引蘆迺赴瀛。聞君嘯侶新流曲。禊飲催蘭泛河清。雖欲
 追尋良此宴。還知染隩脚跼跼。杪春ハ暮春也。併日ハ毎日と云
 き。もとモト賀宇ハ淮南子の大度成而藻雀相賀。もとハ賀。入宇
 もとハ居也。又作ある。雁銜蘆而翔以避矰繳。もとハ賀。入宇
 やの海まで行ひ。嘯侶ハ詔あるん。新ハ親とほれ。良此ハ下上
 ふちりる。さて此良宴ともど。深隩ハゆく。病もすらもど。信良の況
 痘と哀文。尋膏肓之隩。屢欲顯二暨之逃避。すと。跼跼町ハ行不云貌
 こうすまよア西

短歌二首

佐家理等母之良受之安良婆母太毛安良牟已能夜萬夫
吉卒美勢追都母等奈

士卒美勢追者毋等奈

や、せうへ、せうへ、あらば、かうへ、おらへ、せうへ、
たのきのよろこび、とほく、もぐー、もぐのよろこび、
えてもくと、えと、えと、えと、えと、えと、
を歌くや、が、黙のまのいと、

安之可伎能保加爾毋伎美我余里多々志孤悲家禮許曾
婆伊朱爾見要家禮

かきのちのすきものよむたれといふもえられ
一二の匂ハゆきの跡うをえり、ひれども、
さればこそとよ

述戀緒歌一首并短歌

都追宿夜於知受伊采爾波見禮登宇都追爾之冬太爾安
良補婆孤悲之家口知弊爾都母里奴近在者加弊利爾太
うねバシヒ一けくちへよつとめちうらばかへりふざ
仁母宇知由吉底妹我多麻久良佐之加倍底補天蒙許萬
ふもうちゆきそいもがよしまくらさうてねてもこま
思宇多麻保己乃路波之騰保久關左閉爾弊奈里底安禮
一をたまほこのみちハ一とほくせきそ一よなうてあれ
許曾興思惠夜之餘志播安良武曾霍公鳥來鳴牟都奇爾
こそよーをやーよーハあらむぞほとぎすきあうんつきよ
伊都之加母波夜久奈里那牟宇乃花乃爾保弊流山乎余
いつーうもそやくよりもくのとあのふかづやまとよ

曾能未母布里佐氣見都追淡海路爾伊由伎能里多知青
そのこもふとさりみつあよこぢにいゆきのちよちあと
丹吉奈良乃五家爾奴要鳥能宇良奈氣之都追思多戀爾
によあらのわざくよめえどとのうらふけーくちくざひよ
於毛比宇良夫禮可度爾多知由布氣刀比都追吾牟麻都
おもひうらぶれうどふこちゆよけどひつあるとまつ
等奈須良牟妹宇安比底早見牟
とあすくいもをあひてそやまと

ハヤドレードハハ四ドク副とく天智紀童谣たまふぬくとき
ホ野児をふぬくときどこちつたへたる神社のぬとく、ハグツラグ
ルキハハムグズく早つとあく、タモ苦ーとサツアモトキ
リス、寺九筑波山難舟寺のあよ、タマハサグミタミシトヨモトキ

妻のめぐらうつりとひよる、まくすみれ、あくづま、おきゆうと
トあらはゆくうとりよ、おきゆくまやまことぬき、山を越せり
りく、その日のきく、別け一戸とかきうかとよどく、よどくからひて
う日のきくとよ、よそハ甚も、事十でほのかの伊多夫良之もと、吉十一
甚振浪ちどりあり、たゞよあねび、直ちに年よあねび、及あそび
詞も、うすみうぢりて、はまだせき、あるかすみ、ようぢゆき
て妹が子秋まさくねまきをとよみ久保立がりやしよがめ、路波
えのえハ助辞、又波えハ間のと、へあうてあれとくすくとくとく、
ゆうてあれ、巴こそぬゆのねとりと尾くすり、うへあくとやハおる
よひあくとや、あすとぢよいれのさくちハ毎とまく、ゆゑのとくとく
う、ま一キ十ふ裏歟とまくとて、うくとよ出、あとなど
るすらん妹とく、五音と待て鶴庭とくとく、妻ニ扶と奉て大示せ流

君々とよきせるの詞と同、く、度るすの古傳へ安比てアアノ釜伎てと
内奈アんを、次の及哥の安比の二字を並べて、併れてかくちれるなりと
安良多麻乃、登之可弊流、麻泥、安比見禰婆、許己呂母之努
爾、於母保由流、香聞

あらまのうかるまで、あひみねば、くろとちぬふ、わくほゆるのむ

えみハ萎

奴婆多麻乃、伊采爾波母等、奈安比見禮騰、多太爾安良禰
婆、孤悲夜麻受家里
ぬ、ざま、じりふ、かく、あひこれど、たゞあらねば、こひやまとけり
たのもあひよ、とくちるて、たゞ、あらまよ、とく、あらまよ、とく、
安之比奇能、夜麻伎弊奈里底、寺保家騰母、許己呂之遊氣
婆、伊采爾美要家里

あいびきのやまこあつてとうけどもそろしゆけばかりふみえり

山とすくもうて遠れどくへ

春花能宇都路布麻泥閑相見禰婆月日餘美都追伊母麻
都良牟曾

もはあうよまてあひとなづきひよみつしまつんそ
じつうが數へよこはぬぐくへ

右三月二十日夜裏忽々起戀情作大伴宿禰家持
立夏四月既經累日而由未聞霍公鳥喧因作恨歌二首

作恨ハトヒヨウル

安思比奇能夜麻毛知可吉卒保登等藝須都奇多都麻泥
爾奈仁加吉奈可奴

あいびきのやまこちのきとほとくさすよきたつまでふかふらさむりぬ

たましめくをあいちばよきとむすべてみかのすあらう

もくらうきとくわくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

多麻闇奴久波奈多知婆奈牟等毛之美思己能和我佐刀
爾伎奈可受安流良之

霍公鳥者立夏之日來鳴必定又越中風土希皆橙橘也
因此大伴宿禰家持感發於懷聊裁此歌三月二十九日
和名抄 橙安倍太
知波奈似袖小也とも、三月廿九日のよと本幸行とせり、古本小字
よかうよかうよ

二上山賦一首

此山者有射水郡也

小字うまとよどむ有ハ在の邊に賦とちひづるも奇のよと下りてゆ成

一首の下并短歌とよべ

伊美都河泊.伊由伎采具禮流.多麻久之氣布多我美山者.
いみづぐも.いゆきめぐれる.たまく一げ.ふゝがみやま.
波流波奈乃.佐氣流左加利爾.安吉乃葉乃.爾保弊流等伎
はるもあ.の.さけるさかわ小.あきのそ.ふほつるとき.
爾.出立底.布里佐氣見禮婆.可牟加良夜.曾許婆多敷刀伎.
に.そたちて.ふうさけられバ.かんがら.や.そこばたふとき.
夜麻可良夜.見我保之加良武.須賣加赤能.須蘇未乃夜麻
やまのらや.みづほーうら.もめびみの.もそみのやま
船.之夫多爾能.佐吉乃安里蘇爾.阿佐奈藝爾.餘須流之良
の.ちづくふの.さきのあアミ小.あさふきふ.よもるーら
奈美.由敷奈藝爾.美知久流之保能.伊夜麻之爾.多由流許

あみゆよなぎ小.みちくろさほの.いやまーみ.たゆる.
登奈父.伊爾之弊由.伊麻乃辛都豆爾.可久之許曾.見流比
とふくいふーへゆ.いまのをつよ.うくーこそ.みる.
登其等爾.加氣底之努波采
とごとに.うけてーぬハメ

いは夏後.ゆきり.れる.河のむす.こそ.ご.ぞ.そ.ぞ.く.く.き.こ.
そ.そ.二.園.の.う.う.う.れ.こ.う.あ.う.な.神.が.く.の.そ.れ.う.き.と.み.ら.め.神.
そ.そ.み.の.山.の.と.ハ.友.寄.よ.い.す.一.身.ち.ゆ.く.き.そ.ね.す.よ.神.代.よ.神.
此.山.と.爰.移.ひ.古.る.す.と.育.一.身.そ.ち.そ.ひ.進.ま.く.愛.る.そ.う.し
と.翁.の.え.こ.や.ん.と.移.う.な.う.ぎ.や.そ.そ.み.ハ.施.設.宿.の.そ.廻.の.四.居.
い.づ.め.く.ニ.上.山.の.櫟.の.ま.ぶ.谷.と.り.か.と.も.ん.そ.そ.神.ハ.ち.山.と.神.
そ.そ.そ.の.ま.ま.ま.の.ま.ざ.に.と.り.び.き.と.か.く.じ.す.ま.ん.ま.ざ.じ.ぶ.二.上

山をきば名あまぐ一、れあぎよ下やういやまふといもんゐのゆ年の序
あひ、そつへうう、小國、きみいまの遠都豆よなきうらむくよりう
之夫多爾能佐伎能安里蘇爾興須流奈美伊夜思久思久
爾伊爾之弊於毛保由

さかふのぞきのあわそ小よするか、いやよとくよいふ、おいたゆ
せうよつうへりりゆくよう、ハレよつちてまはー、ちゅうゆー、
又けよ感じてがくじつる

多麻久之氣數多我美也麻爾鳴鳥能許惠乃孤悲思吉登岐

波伎爾家里

たまくげ、やがみやまふ、あくどきのこゑのひき、とき、ハニマケ、
タマクゲ、やがみやまふ、あくどきのこゑのひき、とき、ハニマケ、

右三月三十日依興作之大伴宿禰家持

四月十六日夜裏遙聞霍公鳥喧述懷歌一首

奴婆多麻能都奇爾牟加比底、保登等藝須奈入於登波流

氣之佐刀騰保美可聞

ぬぢ、まのつまふ、やし、ほとぎ、ちくわとはるく、せう、う、かも
月のゆるうよくし、きうのゆき、こゆ、は、き、居る黒う、遙く
一、てうとよ

右大伴宿禰家持作之

ス磨が左の下の二首の事

大目秦忌寸八千島之館餞守大伴宿禰家持宴歌二首
奈吳能宇美能意吉都之良奈美志苦思苦爾於毛保要武
可毋多知和可禮奈波

なぞうみのおきつーらあ、とくよ、おりかえく、たぢわづあ、

まよひ越中あう

我加勢故波多麻爾母我毛奈手爾麻伎底見都追由可牟
乎於吉底伊加婆乎思

わづせこたまふしおちてよまきてみつゆをおきていうひを
そばあぢのくくすかか和のほふく、和我とそづかくト上う淫
ちくん、いうばハユフヘ

右守大伴宿禰家持以正稅帳須入京師。仍作此歌聊陳
相別之歎。四月二十日

四月二十日の立まくすをかき、吉布小字もるふある

遊覽布勢水海賦一首并短歌此海者有射水郡舊江村也有在の邊
物能乃敷能夜蘇等母乃辛能於毛布度知許己呂也良武等宇
ものゝよのやそとしのをのちりよどじらつてろやらんとう
麻奈采底宇知久知夫利乃之良奈美能安里蘇爾與湏流之夫多
まつめてうちくちづのうちあるこのありそふよする。とぶた

爾能佐吉多母登保理。麻都太要能奈我波麻須義底。宇奈
小のさきたもとや。まづごのあがはまそぎて。うな
比河波伎欲吉勢其等爾。宇加波多知可由吉加久造岐見
じがハキヨミセごとに。うはたちかゆきうくゆき。ミ
都禮騰母曾許母安加爾等。布勢能宇彌爾。布禰宇氣須惠
つれども。こもあう小と。よせのうみふ。よねうけすを
底於伎弊許藝。邊爾己伎見禮婆奈藝左爾波安遲牟良佐
和伎之麻末爾波許奴禮波奈左吉。許己婆久毛見乃佐夜
わき。ま。小ハコぬれもむとき。くばくも。みのさや
氣吉加多麻久之氣。布多我彌夜麻爾波布都多能。由伎波
けきうたまく一げ。ふ。がみやまに。そよつゝのゆきハ

和可禮受安里我欲比伊夜登之能波爾於母布度知可久
わうれずあアがよひいやとーのそにおもふどちうく
思安蘇婆牟異麻母見流其等

一あうばむいましめるごと

ももももうちくちぢりのうちく、次のすよるもじられてとあるよ。とく
るとうもうちて來とりて、ちぢりんぐゆ中と御殿のゆよ市振チヨブリといふ
え、海道うちとく、御道御道の邊よ舟のくく佐渡サヅルくる
をまたよしゆ、そあるべ、マテハるす東市振の白浜とくづーと
あハ、もれき、室もちくちぢりと地名くしてハト音一でナ、もいだ、又おまち
ばうちきこりとがハ音コノのつば、ちぢや彼此振ホチチフリの空浪フジツウせら来け、後もさやう
るもくす、ヤのくすりうれでこゝ、ね考べー、まづに下のちうる
出、も度子のせ名ちうるべ、うちじらの和名お越中射水郡宇納宇奈
義

美とく、うつはとち、車一上つ所よ鷺川スズカを立とよみて、橋と個人とくーめ
て、玉葉タマエをちもと、かゆきかくゆきハ彼行ホシキ行く、そくありにくとハ、そく
も不飽ハラハラふとく、不知ふとちらんとくづのめ、ふとみのあせらへ、まくはせらへ
島際シマヅチとく、こあれハ木のまく指ハシへとくさり、ゆきハマうれぞ
へ、なまくげ、至ほの枕カタマリ、モ山よ透スルてとく、ゆきハマうれぞ
とハ、かづく、もとすあく、やくにたるやハ、萬葉マニエすまー、くじくのあくとく
セ、くじくの間とゆくくづー

布勢能宇美能、意枳都之良奈美、安利我欲比伊夜登偲能
波爾、見都追思努播牟

少セのうみの、おきつまうなき、あかよひいやとーのそふ、みつ、まぬご

ヰ房ヰヤマのたよ、セうもとく、やど、序とせす

右守大伴宿禰家持作之 四月廿四日 此五字を古本

小字ちゅう

敬和遊覽布勢水海賦一首并一絕

を一絶とハナスル

布治奈美波佐岐底知里爾伎宇能波奈波伊麻曾佐可理
士ぢあミハセキテチリフキウのモアハイマグソノウ
等安之比奇能夜麻爾毛野爾毛保登等藝須奈伎之等興
トアリヒキニヤマヨモエヌモホシキモフキ一トヨ
朱婆宇知奈妣久許己呂毛之努爾曾己宇之母宇良胡非
めバうちあびくこころもーぬスそこをーもうちこ入
之美等於毛布度知宇麻宇知牟禮底多豆佐波理伊泥多
一みとおもよどちうちおまうちむれてたゞそもりいで
知美禮婆伊義豆河泊羨奈刀能須登利安佐奈藝爾可多

底元五
三作下

ちこれバ、いみづがも、こあとのえどり、あとあぎよか、
爾安佐里之思保羨底婆都麻欲比可波須等母之伎爾、義
にあさと、おほみてばつまよびうそよとらーきよ、
都追須疑由伎之夫多爾能安里蘇乃佐伎爾、於枳追奈羨
つ、すぎゆきおぶたふのありうのときよおきつふ、
余勢久流多麻母可多興理爾可都良爾都久理伊毛我多
よせくるたまいかよりよ、うつらうつくりいもが、
朱底爾麻吉母知底宇良具波之布勢之羨豆宇彌爾阿麻
りてよまきもちて、うらぐハ一、小せのみづうみみ、あ
夫禰爾麻可治加伊奴吉之路多倍能蘇沼布理可邊之阿
ふね小まうぢういぬき、ろくのそでふさうーし、
登毛比底和賀已藝由氣婆宇布能佐伎波奈知利麻我比、

とれひて、わざこぎりけバ。をよのときもあちりまびひ。
奈伎佐爾波。阿之賀毛佐和伎。佐射禮奈羨。多知底毛鳥喜母。
あぎさふ。あーぐもさわき。さぐれも。たちてもあても。
己藝米具利。參禮登母安可受。安伎佐良婆。毛美知能等伎
こぎめぐり。これどもあうず。あきそらば。もみぢのとき
爾波流佐良婆。波奈能佐可利爾。可モ加久母。伎羨我麻爾
ふ。もるさらば。をあのそのりよ。うもかくも。きみがまふ
麻等。可久之許曾。參母安吉良米。多由流比安良米也
まとかくーこそ。ももあきらめ。たゆるいあらめや

うちもびくじのちじきももまどり。えくもーもす處と。いもハ
西絆。うまうちねて。ひもまく那すれ。うちハ泡。うがき。ひも勢て。ニ
おとづりハ洲よをるをと。とくよ。うきハ浦。とくよきよりきづ。きぬ

かくよせくる毛藻もへぢへぬまく毛藻もまつやく。かつくせらる。
せぬ。ううふりづものがぞふと。ま藻もとよもん。ぢへうねと
のぞやうすみるを。体とあるも。ううづりんはおもとどりよ。あおお。
あくうぬ。まのぢかいぬ。ぢへがちとつる。今。の檐。か伊ハト。檐。みく
ちひとき。ものとよ。ぢへがちとか。と。ああうん。被すうへ。かぢ
とううがこう。は神の轟もとよ。あく。りひ。卒。ふ。まの。像。地。あ。ま。を。安
ま。ひ。ハ。卯。の。衣。の。安。と。り。ま。く。そ。れ。宿。も。へ。こ。き。と。う。立。く。所。て。し
それども。あう。す。の。ま。と。そ。れ。宿。も。へ。こ。き。と。う。立。く。所。て。し
此。メ。ち。が。引。む。便。せ。く。い。か。に。逃。ご。の。ま。と。え。唐。本。麻。尔。麻。本。と。え。い。づ
ミ。う。き。と。て。ア。で。あ。さ。う。め。ハ。え。唐。本。麻。尔。麻。本。と。え。い。づ
ら。も。ふ。ま。秋。ふ。五。候。と。ま。ん。の。と。也

之良奈羨能。與世久流多麻毛。余能安比太母。都藝底民仁

許武吉欲伎波麻備乎

きらみのよせくもたまよあひもつゞてみよこくさとましまびと

たまくとも落へああひともハ我母久き間り、もよびハ演方へ

右掾大伴宿禰池主作 四月廿六日追和

竹七字、本幸行せり

古手小字よさうり

餉ヲ錢

三誤

佐下今等字者
ハ誤

一誤

四月二十六日掾大伴宿禰池主之館餉稅帳使守大伴宿禰家持宴謌并古歌四首 古手小字以下五字す

多麻保許乃、卷知爾伊泥多知、和可禮奈婆、見奴日佐麻禰

卷、孤悲思家武可母

たまほこの、じちひでこら、わあみぬひまねことくわんのむ

ミマニシハ數多ミ、院出佐の下レ、ヰ等のまゝ、え磨をヨモキシムトモ

一云不見日久彌憲之家牟加母

万葉十七下 十六

右一首大伴宿禰家持作之
和我勢古我久爾弊麻之奈婆、保等登藝須、奈可牟佐都奇
波、佐夫之家牟可母

わづせごのくふ、ま、あ、ほ、く、が、平、あ、う、そ、つ、ま、ハ、セ、フ、一、ケ、ん、の、ト

稅帳使守もとつ國のま、く、い、ふ、す、ま、ば、

右一首今内蔵忌寸繩麻呂作之

安禮奈之等、奈和備和我勢故、保登等藝須、奈可牟佐都奇
波、多麻乎奴香佐禰

あれあ、と、も、わ、び、わ、つ、せ、こ、わ、く、ま、す、ま、う、そ、く、つき、ハ、た、ま、と、み、の、ま、ね
和、す、と、と、く、佐、る、ま、う、う、れ、り、も、も、う、す、情、と、も、よ、愛、け、と、つ、こ、め、く、
ま、ね、ハ、ゆ、セ、と、延、つ、て

右一首守大伴宿禰家持

口

石川朝臣水通橋歌一首

和我夜度能花橘乎.波奈其尖爾.多麻爾曾安我奴久.麻多婆苦流之美

わのあどのかあたかみをばあごめにたまかであづくまづぐる
これハ古あるをうすたのとうよ時ひされ此時涌くもまく花ごめハ
伊勢が根ごめよ風のゆきとさすんとよるこの花のゆく花を小
とつこ

右一首傳誦主人大伴宿禰池主云爾

守大伴宿禰家持館飲宴歌一首

四月二十六日

美夜故弊爾.多都日知可豆久.安久麻底爾.安比見而由可
奈.故布流比於保家年

みやこべふれつひうちづく.あくまでふ.あひみてゆのなすむしおかん

立山賦

一首并短歌

此山者有

新河郡也 和名新川尔布

有ハ在の語

安麻射可流比奈爾名可加須.古思能奈可.久奴知許登其
あまさのる.ひふかなう.も.こーのあふくぬちことご
等.夜麻波之母.之自爾安禮登毛.加波波之母.佐波爾由氣
と.やまハーも.ち.小あれども.かも.ト.も.さ.も.小ゆけ
等.毛須賣.加未能.宇之波伎伊麻須.爾比可波能.曾能多知
ど.も.も.め.が.い.の.う.ー.も.き.い.ま.す.に.ひ.う.く.の.そ.の.こ.ち
夜麻爾.等許奈都爾.由伎布理之伎底.於婆勢流.可多加比
や.ま.ふ.と.こ.あ.つ.よ.ゆ.き.か.す.ー.き.て.お.ぞ.せ.る.か.く.う.ひ
河波能.伎欲吉瀬爾.安佐欲比其等爾.多都奇利能.於毛比

かはのきよモせふあさよひごとふたつきりの。おかひ
須疑米夜安里我欲比伊夜登之能播仁余增能未母布利
さきめやありうよいいやことのもふようのこもふり
佐氣見都く余呂豆餘能可多良比具佐等伊末太見奴比
さけみつゝよろべよのかくらひくやといまゞミぬひ
等爾母都氣牟於登能未毛名能未母伎吉底登母之夫流
とふりつひしおとのえしあのえもきゝてともふる
我禰
がね

名をすば名と輝やうまく神代紀星神と天香背男、又か又火、赤酸^{アカヤシ}筋^{スジ}と
いふかの詞^{コト}より、あれば下のかと燭^{ヤハシ}くし、室^{ムロ}も^モか^モ先^{ヤハシ}、懸^{スル}と^シ人^ヒあらわす
清名よかせもんき川とよむるも、れも、空氣の山名よりせてもんへ、又紀の國

多知夜麻爾布里於家流由伎乎登已奈都爾見禮等母安
可受加武賀良奈良之

たちやまとすすおんもゆきをととあつよえれどもあすかんがらあらう

あくそまくらへかんぐりあくばれむあらうとよそ

可多加比能可波能瀨伎欲久由久美豆能多由流許登奈
久安里我欲比見牟

かこひののせきよくゆくみづのたゆもとあくあがよしそん
れゆめとよそく

四月二十七日大伴宿禰家持作之

敬和立山賦一首并二絕

阿佐比左之曾我比爾見由流可無奈我良彌奈爾於婆勢
あやいせしろがひよみゆるかんあがらみあよひせ

流之良久母能知邊守於之和氣安麻曾曾理多可吉多知
る一らくものちへをお一わけあまぞりりたのきたち
夜麻布由奈都登和久許等母奈久之路多倍爾遊吉波布
やまよゆふつとわくこともあくとスコ一ゆきハシ
里於吉底伊爾之邊遊阿理吉仁家禮婆許其志可毛伊波
りおきていふ一へゆありき小ければこじーうもしいも
能可牟佐備多末伎波流伊久代經爾家年多知底為底見
のうんさびたまきいろいくよ一ふくらたちくみて
禮登毛安夜之彌禰太可美多爾乎布可美等於知多藝都
れどもあやしみねたうみたふをようすとおちたきつ
吉欲伎可敷知爾安佐左良受縞利多知和多利由布佐禮
きよきかよちふあざらばきりたちこゝわゆよそれ

婆久毛為多奈毗吉久毛為奈須已許呂毛之努爾多都奇
バクリのたふびきくりゐあすこゝろもしぬふたつき

理能於毛比須具佐受由久美豆乃於等母佐夜氣久與呂
りのおとひもぐそよゆくみづのおともさやけくよ豆
豆余爾伊比都藝由可牟加波之多要受波

づよ小いひつきゆうへはーたえます

おもてへおえやめようおりのまよよ金くくゆあこそういふゆ
府とう省空えゆへかくさうへんとやうて神とせうこよおハセ
ちと名を冠するハ天とるく隼立るかよじの名を冠すとよくあまで
そくハ接よ神代紀火進命とみをそくと御ふよればばそくに進ミ
ふくにきのあまとおうがて天小進とよるかくくゆをりふくもぐく
くの追々事一まとめうちるをうきりとくにほくあうきよんぢハ

在本多れハニードーハ萬の廢れむに半三崎山のさき園ニシーキ
よたぬとくがんむびちいまとよ、をとほみとのことくハ、とくの
略々きくよかづみかくら川のりわる石とよ、おとよばねてとく、
とく出夕されど、草木よきくつるくメよまればうて、おちくぞの
おとハ足くくわらすくもあすとよ、モモのくづくもくと
よくくわらすく、モモのくとよ、山川のなよりくあうねこ
多知夜麻爾布里於家流由伎能等許奈都爾氣受底和多
流波可無奈我良等曾

たちやまにすりおくるゆきのとこちつよげばくわら、がんむびらとぞ
をくしてやうら、不情とて身骨と絶るをりよ、うとくもくよやのく
けあるべせのまとくすはすとくよとく

於知多藝都可多加比我波能多延奴期等伊麻見流比等

母夜麻受可欲波牟

れちきつかこのひのひたえぬごと、まもるいそ、やまと、かよそん
らのふ続め、そくすくかくくいもとひまうてスイタとく

右祿大伴宿禰池主和之 四月廿八日

入京漸近悲情難撥述懷一首并一絕

可伎加蘇布敷多我美夜麻爾可牟佐備底多底流都我能
かきうづふ、たがみやまに、うんさびて、れてるつぶの
奇毛等母延毛於夜自得伎波爾波之伎與之和我世乃伎
き、もどもえし、おやじときハ小を、きよ、わがせのき
美牟安佐左良受安比底許登騰比由布佐禮婆手多豆佐
みをあやしらば、あひてこと、ひゆふされば、てねづさ
波利底伊美豆河波吉欲伎可布知爾伊泥多知底和我多

そりて、いづぐを、きよきかあちよ、いでたうて、わがた
知彌禮婆安由能加是伊多久之布氣婆美奈力爾波之良
ちみれば、あゆのかせ、いたく、ふけバ、みあとふハ、ぢら
奈美多可彌都麻欲夫等須騰理波佐和久安之可流等安
かいたうて、つまよ、ぶと、もどうハ、さもぐ、あーのると、あ
麻乃乎夫禰波伊里延許具加遲能於等多可之曾已乎之
まのをぶねハ、いとえこぐ、かぢのふとたう、そことを
毛安夜爾登母志美之怒比都追安蘇夫佐香理平須賣昌
もあやふと、み、ちぬじつ、あうふそうりと、すみろ
伎能乎須久爾奈禮婆美許登母知多知和可禮奈婆於久
きのをすくふなれバ、みことむち、たちわうれあバ、おく
禮多流吉民波安禮騰母多麻保許乃、美知由久和禮椿之

れとる。きみハあれどもたまほこの。そちゆくわれ。良久毛能多奈妣久夜麻乎。伊波禰布羨古要弊奈利奈婆。らくものたあびくやまと。いそねみ。こえへありふバ。孤悲之家父氣乃奈我氣牟曾。則許母倍婆。許己呂志伊多。こひしけく。けのあがきしぞ。そこかへば。こころーいた思保等登藝須許惠爾安倍奴久。多麻爾母戎。手爾麻吉毛。1.ほとしき。こをみあへぬく。たまみもうてよまき。知底安佐欲比爾見都追由可牟辛。於伎底伊加婆乎思。ちて。あそよひふ。みつ。ゆうんを。おきて。いうを。ト。うきがす。相羽。カモミキ。幹枝。せそつ。の木のやさしくと。まれ。れどもことを含みて。大伴氏の代と。よす。宝持と。幹枝。じきと。枝。ト。よす。おやドハ同じ。ときえハ常磐。ゆく常磐と。おは美奈。

どんハ同ド。すふおづれ。か賀の木の。そまよつうつて。常磐と。いひて。すま。波音を。すすり。あひて。と。い。舍和鬼言。あ。の風ハ。せ。の。三。の。すみ。越俗。悟東風。謂之。安由。不可是也。と。あり。そことを。と。の。一。ハ助辯。ふて。それを。と。り。と。す。す。す。あれ。が。み。と。め。ち。ハ。次。の。き。う。を。を。圍。の。こと。す。カ。ち。と。り。同。と。く。官車。と。う。く。ま。と。と。り。と。く。お。れ。と。る。き。み。義。ど。ハ。あ。ウ。あ。ク。と。と。あ。れ。ど。と。り。と。く。と。く。あ。う。と。越。隔。け。の。せ。う。と。く。日。え。と。く。を。り。う。と。り。と。く。と。く。あ。う。と。越。隔。け。の。あ。ー。ハ。あ。ハ。セ。の。絶。え。き。ハ。相。貫。と。き。り。郭。この。営。は。榜。と。き。れ。合。戸。と。い。ア。お。き。と。ハ。置。ら。し。波。と。放。ー。を。と。

和我勢故婆。多麻爾母戎毛奈。保等登伎須。許惠爾安倍奴伎。手爾麻伎底由加牟。

わ。せ。こ。か。た。ま。ふ。も。づ。ち。ほ。く。ぎ。も。こ。あ。ぬ。き。て。よ。ま。き。て。ゆ。の。ん

右大伴宿補家持贈祿大伴宿補池主四月廿日

忽見入京述懷之作。生別悲兮斷腸萬回。怨緒難禁。聊奉所

心一首并二絕

安遠爾與之。奈良乎伎波奈禮。阿麻射可流。比奈爾波安禮
あをひよし。ならをきをあれ。あまさる。ひあ小ハあれ
登和賀勢故乎。見都追志乎禮婆。於毛比夜流。許等母安利
どわうせこを。みつゝれバ。おもひやることもあり
之乎。於保伎美乃。羨許等可之古美。乎須久爾能許等。登里
一を。おほきみのみことのしこミ。をすく小のことより
毛知底。和可久佐能。安由比多豆久利。無良等理能。安佐太
もちて。わらくさの。あゆひたづくり。むらとりの。あさだ
知伊奈婆。於久禮多流。阿禮也。可奈之伎。多妣爾由久。伎美

ちいふハ。おくれ。あれやかふ。き。たびよゆく。き
可母孤悲無。於毛布蘇良。夜須久安良。禰波。奈氣可久。乎等
の。そこひん。おしよろ。や。そくあらねば。あげうくと。
騰朱毛可補底。見和多勢婆。宇能波奈夜麻乃。保等。登藝須
どめ。もかねて。みわ。セハ。うの。を。ふ。やまの。はと。ぎす
補能未之奈可由。安佐疑理能。羨太流流許已呂。許登爾伊
ねのみ。かう。あさぎりの。みど。そ。ころ。こと。ふ
泥底。伊波婆。由遊思羨。刀奈羨夜麻。多年氣能可味爾。奴佐
で。い。ち。ゆ。。み。と。あ。み。や。ま。た。む。け。の。う。み。小。ぬ。と
麻都里。安我許比能麻久。波之家夜之。吉美賀多太可乎。麻
まつ。あ。が。こ。ひ。の。ま。く。そ。一。け。や。。き。み。が。た。う。を。ま
佐吉久毛。安里多母等保利。都奇多。婆等伎毛可波佐受。

ときくも。ありたるとほり。つきたゞ。ときもうへやす。
奈泥之故我。波奈乃佐可里爾。阿比見之采等曾
あでーこづ。そのさうりか。あひみーめとぞ

おひしや。ハねうひとやを生うえ。をもくみのうアカウテハ。おのうふ

いづみくわもとよす用。きん。あゆひ是信。和名抄行纏蔭。唐式云諸
府衛士人別行纏一具。本朝式云脰巾俗云波編商為行纏故附出。とも、其敷少て、革カドモ。きと化れば。あるまのあゆひとも
よそいちいハ葉カムシ。麻の繡。それをかくて。三と色て。あと。うそく。うそ
カの古畫。よ多ト。今。田舎。いちらひも。き。用。ふ。不。と。ぞ。紀。よ。ハ
脚帶。を。あゆひ。と。刑。モ。曾極紀。す。阿庸。比。施豆。短梨。ト。も。う。ぞ。く。ス
キ。ト。化れ。ば。よ。鳥。の。役。ハ。も。多。の。枕。詞。男。一。こ。り。ん。ハ。鳥。や。せ。き
又。對。く。男。ガ。鳥。を。毛。う。も。り。え。ま。げ。う。ハ。ま。げ。き。を。近。榜。一。も。ち。り。

父。か。う。き。と。う。け。く。も。り。の。繡。か。の。毛。山。切。み。よ。は。ぎ。う。の。花。の。ま。る。じ。と。云。
は。と。新。勢。の。ま。る。じ。ん。と。山。中。の。勢。ハ。波。の。く。む。り。流。き。や。ま。る。る。お。新。
百。糸。
道。神。唐。韻。云。楊。音。鶴。和名太無今乃加美道。上。祭。一。云。道。神。也。神。代。紀。授。其。杖。是
謂。岐。神。也。又。授。其。帶。是。謂。長。道。磐。神。と。有。軼。い。の。ち。く。ハ。の。む。と。延。え。の。む。ハ
お。え。た。六。既。よ。い。ア。毛。の。た。う。と。あ。ひ。ア。リ。め。と。が。と。ぐ。く。そ。え。あ。う。カ。と。い
ア。ハ。ち。じ。て。年。月。と。う。と。う。バ。と。り。き。と。キ。と。か。ネ。ヤ。ギ。ハ。は。イ。不。易。の。と。あ
ひ。う。う。と。ぞ。ハ。お。え。セ。ー。り。路。ー。と。ど。と。の。ま。る。い。の。あ。く。と。り。と。ほ。ー。と。る。ー
多。麻。保。許。能。美。知。能。可。未。多。知。麻。比。波。勢。年。安。賀。於。毛。布。伎
美。立。奈。都。可。之。美。勢。余
た。ま。ち。この。み。ち。の。う。み。も。ま。し。ハ。せ。ん。お。が。せ。り。よ。き。こ。と。あ。つ。う。み。せ。よ

ましハ幣ニ、まつゝ、馴看トロシカとよきみて、祝まヒツメリとよよ回ド

宇良故非之和賀勢能伎美波奈泥之故我波奈爾毛我母
奈安佐奈佐奈見牟

えうこひ、わがせのまゝ、なでてこづもあふとびやあ、あやまやまえん
えうこひ、まのきと畠各アタマ

右大伴宿禰池主報贈ル和歌 五月二日

思放逸鷺夢見感悅作歌一首并短歌

大王乃等保能美可度曾美雪落越登名爾於弊流安麻射
れほきこのとうのみうどぞみいきする。一とあよおーる。あまざ
可流比奈爾之安禮婆山高美河登保之呂思野乎比呂美
かるしふよーあればやまたう。かもとほーそーのをひろく
久佐許曾之既吉安由波之流奈都能左加利等之麻都等

くさこそ乞きあゆをとるあーのとうわとちまつと
里鶴養我登母波由久加波乃伎欲吉瀬其登爾可賀里左
りうらひ、とし、ゆくうはのきよきせごと小うぐとさ
之奈豆左比能保流露霜乃安伎爾伊多禮波野毛佐波爾
一あづさひのぼるつゆともあき小いたれバのよさと小
等里須太家里等麻須良乎能登母伊射奈比底多加波之
とりすだけりとまさらとのともいぢあひてたのへー
母安麻多安禮等母矢形尾乃安我大黒爾大黒者、蒼之名也之良
もあまゝあれどもやうとのあふおぢくろよ 三一
奴里能鈴登里都氣底朝鴉爾伊保都登里多底暮鴉爾知
ぬとのも、さうつけてあさかわにいづともうそてゆふすうち
整理布美多底於敷其等爾由流須許等奈久手放毛乎知

どうふみくてちあごとふゆるまことふくたをちかむをち
母可夜須伎許禮乎於伎底麻多波安里我多之左奈良弊
七カやも手これをあきてまたハありがこーさあうべ
流多可波奈家牟等情爾波於毛比保許里底惠麻比都追
るたのハなきんとそろふ、よもひほこみてをまひつ
和多流安比太爾多夫禮多流之許都於吉奈乃許等太爾
やくるあひたよたずれたるちくつおきあのことだふ
母吾爾波都氣受等乃具母利安采能布流日乎等我理須
もこれふつけばとのぐちあめのふるひをとかひす
等名乃未乎能里底三島野乎曾我比爾見都追ニ上山登
とふのえをのりてみーまぬをそうじ小みつゆくのやまと
妣古要底久母我久理可氣理伊爾伎等可弊理伎底之波

びてえてくもかくすかけといふきとう一力きて立ち
夫禮都具禮呼久餘思乃曾許爾奈家禮婆伊敷須弊能多
づれつぐれをくよーのうこふあけれどいよりべのた
騰伎乎之良爾こ爾波火佐倍毛要都追於母比孤悲伊伎
どきをーらに、くろよハひそへももつ、おもひこひいき
豆吉安麻利氣太之久毛安布許等安里也等安之比竒能
づきあまりけだーくもあふことありやとあいひきの
乎底母許乃毛爾等奈美波里母利弊乎須惠底知波夜夫
をてもこのもふとあももりしまへをもててちはやよ
流神社爾底流鏡之都爾等里蘇倍已比能美底安我麻都
るたのやうろふてるか、いちづふとあらそへこひのみてあがまつ
等吉爾辛登賣良我伊采爾都具良久奈我古敷流曾能保

ときふをとめうういめふつぐらくあうこふる。そのほ
追多加波麻都太要乃波麻由伎具良之都奈之等流比美
つたうハまつごろのをまゆきぐらーつふーとるひミ
乃江過底多古能之麻等比多毛登保里安之我母能須太
のえもぎきてたこのーまとびたとほりあーうしのをぶ
久舊江爾乎等都日毛伎能敷母安里追知加久安良波伊
くするえ小をとつひしきのよしアツチかくあらばい
麻布都可太未等保久安良婆奈奴可乃宇知波須疑朱也
まよつうたみとくあらばあぬうのうちハモギメや
母伎奈牟和我勢故禰毛許呂爾奈孤悲曾余等曾伊麻爾
もきもんわうせこねじころふなこひそよとがいま小
都氣都流

つげつる

遠のそとハ妻ニヨ羅髻をとすアシキ集丸をす、ミシモリヒテ若
シおつちとちづきから、ちうねりと程をとす、傳字あらん代考アド、皆つうり極詞、
あづきひ段出、矢形尾、矢ハ傳字より屋形ちくア、屋の棒のゆくいろは
うみのへまの形セテ脚文ミヒトスモラントルヘイモレキ、白刃アの頭ハ
船舟焼毛るあきよー立石つるふるたす敵まきヒトス、白刃ヒユハ逐
無ヌベゆるすてもくハ枝てハぬ捕キヒトス、モチハ傳まれ御めヒミヌム
リハ左傍ハほくおんのをち返キヒツモ同、キ立まく辛智ヤリヒトス
シ素アーラフ、カヤモカカハ後邊をもくづのさかね後ナヒ、セナカシ
くもがき度ラキヒトス、ヤクアシジフハ月日ヒ便後モトドキヒトス
れハ在ハ後紀宣命ミキ河ヒキヒトスカシハ醜翁ヒヘ御釋、カタヒ
ハ山田史君万々ときよあひヒトスカヒトスの下粉ヨ生ス。トビノ墨

と、三島聲也名、もとづれつゝれハ若人の事ハさきをうる告るたまえ、
さればとりよきと歎くハ例々呼久すの、まゐら紀よ招とをきと問ひ、
よハ招きはまつて、ま十九月立一月トテ、平伎フキアラシ音ひまくじどきを
あやまきそも、より郭カマを招をひて、捨送スルシまよへ季のとき俱エレんと
も、これ、夜ヨリを招アサシ、召アサシとすとく、ハ、集アツミめひやくさりまほに、
そうちもおねぐの自らの心とよ、をとこす、彼面此面ヒメニコトモニハとく、
ハ、寄アタフ、さづくらまへ、儀文イムニとく、そくからううとへ差よいづく、
妻アガの事アガシとく、からうハ秀ヒカルすて、肆シテハ御嬢ミツバチ、相撲ボクテの最手オチテと
ソよ固アタフ、まよくにせきをつき、香名抄鰐カネシテ、このろを遠アリは
つき、とりとぞ、このころの「あきよし」、ひまのはたこの鳴アラシ、とびすと
かうかね回アラシ、はに名アラシ下アラシ出アラシ、そくあくべ、まよつう、といわゆるやう、
まゆのうちアラシ、辛アラシ十三、久アラシふあふ今アラシむらうをアラシ、今アラシつふをアラシあく

とぞといふふ固アタフ、詞アラシれれば、だまアラシ、どうか、ソ詞アラシとしきこゆ、か國の人アラシう
とりとだみとゆう、成人アラシア、ま油アラシ余アラシハ余アラシの誤アラシう、い、え房アラシ本アラシと
木アラシ、れきアラシ、きあんアラシ、ワセアラシ、ハ、彦アラシのゆアラシ、まちアラシと、伊麻アラシの麻アラシへ木アラシの誤アラシ
ふ、い、夏アラシ、告アラシ、え居アラシ、かよアラシ、と、度アラシかわアラシ、これ、と、
矢形尾アラシ、多加乎手爾須惠アラシ、美之麻野爾アラシ、可良奴日麻禰アラシ久アラシ、
都奇曾倍爾家流アラシ、
やうをのたうとて、まよアラシ、みアラシ、よ、からぬひまわアラシ、つきアラシ、ゆける
かねアラシまわアラシ、ハ、彦アラシのゆアラシ、間不豫アラシのまく、夙アラシと、從アラシるをアラシ、
二上アラシ、辛底母許アラシ、能爾アラシ、安、美佐アラシ之底アラシ、安我麻アラシ都多可乎アラシ、伊
尔都氣追母アラシ、
すがみのとて、このもの、あみそアラシて、あぐまアラシ、と、い、すつげつアラシ
我は唐アラシと、爰アラシ、告アラシ、て、か、ハ、説アラシる詞アラシ

麻追我弊里之比爾底安禮可母佐夜麻太乃爭治我其日爾母等采安波多家牟

情爾波由流布許等奈久須加能夜麻須可奈久能未也孤
悲和多利奈牟

よ、ゆるがくとあくまでかんじ
ゆふくわくともうのひ難いのせよ
所の黒ほくべー

史記十七

誤
翔

誤精二情

右射水郡古江村取獲蒼鷹形容美麗鷺雉秀群也於時
養吏山田史君麻呂調試失節野獵乘候搏風之翅高翔
居雲膺鼠之餌呼留靡驗於是張設羅網窺乎非常奉幣
神祇特守不虞也粵以夢裏有娘子喻曰使君勿作苦念
空費精神放逸彼鷹獲得未幾矣哉湏臾覺寤有悅於懷
因作却恨之歌式旌感信守大伴宿禰家持 九月二十六日作也

セーナーのまことひあさくまーあらはそえ

高市連黒人歌一首 年月未審

賣比能野能須吉於之奈倍布流由伎爾夜度加流家敷
之可奈之久於毛倍遊

めひのぬのちきおもべよゆきよやどかるノシカキモおひゆ
めひのゆハ和名抄越中婦負ホモシ婦とねと訓へうそぞ、かくめひ
くわくんとほりとあまぐ、ま海を負、老女のすみせんば、ねひくまき云
第々又考本教書が殿名考ニ、婦負と當時官家ニ用ひ文ちよ婦負
とちとく、これよりは比トキテハヨリミハ代モノ下倍ハ保の誤也
右傳誦此詩三國真人五百國是也 詞を今誦の字は誤れ也
東風越俗語東風謂之伊多久布久良之奈吳乃安麻能都
利須流半失禰許藝可久流見由

あゆのうせりくふくら、あごのあまあすするをぶね、ときかくるこゆ
あごハよゆせ、夙とねして、ゆるく傳、ほりとく
美奈刀可世佐牟久布久良之奈吳乃江爾都麻欲比可波
之多豆左波爾奈久
みちもかせそしくふくら、なごのちよつまよじかく、たづけはまく
一云多豆佐サワガ和久奈里
安麻射可流比奈等毛之流久、許已太久母之氣伎孤悲可
毛奈具流日毛奈久
あまぐのうじあくしろく、だくし、おきこいのも、あぐるいもく
ちくもハ和むまくなどもむまく、ちく都ハ想もく、歌ハあせーきく
みきううそくかくよまく

故之能宇美能信濃演名

乃波麻守

由伎久良之奈我伎波

流比毛。和須禮底於毛倍也。

のうすのまをねがひて、かくはんのうすのまをねがひて、
京とよしや。こなかつまくはん。

右四首天平二十年春正月二十九日大伴宿禰家持
礪波郡雄神ヲヤミ河邊作歌一首 神名帳越中國礪波郡雄神ノミコト
牟加赤河泊久禮奈為爾保布乎等賣良之聲附水松等流
登湍爾多多須良之

かうみづもくれあひみや。すめらー。あつまともとせよたすらー。
あつき、麁神経清すよ伽破摩多實能比辯餓道能佐舌鶴區辯羅
珥も菱壳よ角えく。こきあひうれ。こされば今も葦附ハ傳すよく
足突のてくく。ひ。うくよ。一と翁はこれき、さわどちのまくせ
もうちた川よあく水ねよ。ゆきものとよもくー

歸廩郡渡鷺坂河邊時作歌一首 神名帖
歸廩郡渡鷺坂神社

邊行文

宇佐可河泊和多流瀨於保美許乃安我馬乃安我枳乃美豆爾伎奴奴禮爾家里

うさうがをやるせおちもこのあうまのあきのとづよきゆれふけ

見潛鷗人作歌一首

賣比河波能。波夜伎瀨其等爾。可我里佐之。夜蘇登毛乃守。
皮。守口加皮多口和家里。

シリヤカシミアリ
めいのまやきせふかアモリやうとたのと、うのはたちゆす

新河郡渡延
覩河時作歌一首

多知夜麻乃由吉之久良之毛波比都寄能可波能和多理
瀬安夫美都加須毛

たちやまのゆきとくらもとひつものかものわせあづみつうをて
えくらうそハはのまうこのとみてハ解さて宣をも雪一のへゆ解さてくら
一ノハ解さそく消るとそとよめづくれど、おれは居とうと川にし
あり、又乾とふと門にしあれば、消り古ちよハくといつとまぐといす、おのと
ハモ増ふ小増りて、おれるるの鏡よてこつうすはつてと延る

卦參氣比大神宮行海邊之時作歌一首 神名帳能登國羽
咋郡氣多神社、比ハ多の邊り、又怪よ邊字をの
之乎路可良多太古要久禮婆波久比能海安佐奈藝思多
理船梶母我毛

三をちからたこえくればくひのうもあきなぎこすおねからむかひ

神名帳羽咋郡志辛神社あり、ちを源ハそこく、和名抄能登羽咋郡羽
咋郷あり

能登郡役香島津發船行於射熊來村往時作歌二首

捨穗半能の上邊の字あり、いじ、事十六自肥前國松浦縣美除
良久崎發船直射對馬渡海トキ、和名抄能登郡加島加之能來

久万ト有

登夫佐多底、船木伎流等伊有、能登乃島山。今日見者許太
知之氣思物伊久代神備曾

じよぎたてよもぎてるとのとのちまやまけられ、かくよつとけ
こもいくよかみびご

持ひうちとよざととて枕詞かくじハ祚さじを男まいて、有ハ布の邊ニ

香島欲里久麻吉乎左之底、許具布補能可治等流間奈久。

京師之於母保由

かまよしくまきをもつて、こよののかぢともまくみやこーおりうゆ
鳳至郡渡饒石河之時作歌一首 和名抄能守國鳳至不布ト
あり風とく風と風

伊毛爾安波受比左思久奈里奴爾藝之河波伎欲吉瀬其
登爾美奈字良波倍底奈

いふあばひさくあらぬ小ぎーびハキよモセゼトニシムラハア
みるうハ水之占ニ神武紀天皇夏の訓ノのまゝ小天參山の埴とみて
八十卒龜天の手扶八十枚巖龜とつくつて、巖龜を以て丹生の川小
沈ケ古ヒマセリモ新ヒの占ナヘヌトモスルトモハハシニ
ト近ナリ半十四むさ一サヨウノ肩やきとくあり

從珠洲郡發船還太沼郡之時泊長濱灣仰見月光作歌

一首

和名抄珠洲

頃

太沼郡といづ能守越中ふす、元虜が太沼と

治布よし、治布といづす、妻仲名抄を考へた羽吹歌は太海で
あり、延櫛河を以て羽吹歌の氣多大神言ふ所で、能守歌より
風毛歌より、それより珠洲よりかて、又羽吹歌一遷らすある下、

されば海卿二字と謂く沼郡とあせらるるどーといひ、長濱ハ聲
抄氣登歌長濱

奈加

トモ、仰と今作よ譲、元虜が此作のすな

珠洲能守美爾安佐比良伎之底許藝久禮婆奈我波麻能
宇良爾都奇底里爾家里

ちのうすあじび幸うて、ござくれば、なげまのうちに、つきてうふる
右件謡詞者、依春出舉、巡行諸郡、當時所屬目作之、大伴

宿禰家持 雜令元公私以財物出舉者もと

怨鶯晚啼歌一首

宇具比須波伊麻波奈可牟等可多麻底波可須美多奈妣
吉都奇波倍爾都追

トシスハナハアウトカ、モテバ、カサミタヒジカヘキハ、ヨツ、
カハモリハ所ノ待テ、ヤニテ、片まつふのき

造酒歌一首

奈加等美乃敷刀能里等其等伊比波良倍安賀布伊能知
毛多我多采爾奈禮

古ヘ神ヨモニ内ハ齋テ贈ヨ饌テモ醜チモトクシテ、神代紀大譯
詩以云布斗能理斗ニモ、神祇令ニ中臣宣祝詞トモニ義解ニ、謂宣者布
也、祝者贊詩也、ミ、式凡祭祀祝詞者、御殿御門等祭齋部氏祝詞、以處諸
祭中臣氏祝詞トアリ、アグハムト賛物ナリテ奉事ト祈ヘ、惟名ヨモクル、

やうじて人みゆくよすとゆゑ、されば汝えもまもれぬるぞ、汝が名ふこそあれ
ヒムキよく、も人は見てよそぞく也

010190519339

文淵閣詩稿

卷之十七

丁巳仲夏
王氏子雲
人所作詩

